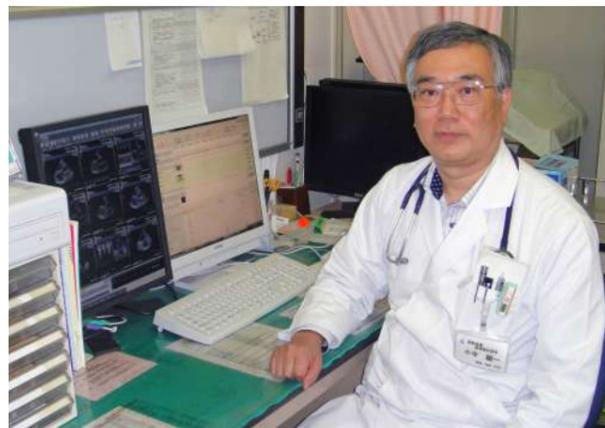


鹿児島県立北薩病院

STELLAR の導入により、患者様毎の検査のシミュレーションが組みやすくなり、診断の内容を迅速かつ分かりやすくお伝えできるので、使用者の負担も軽減



小寺院長

導入効果

STELLAR の導入後、各検査のシミュレーションが可能になり作業効率が向上

旧 PACS (2006 年導入) では、各モダリティからの画像データの保管及び、端末モニターへの配信と簡易なレポート作成を実施していましたが、アストロステージの診療データ統合管理システム (STELLAR) の導入後は、各患者様の検査オーダーから、以前の検査及び画像情報を得るために STELLAR を開き Nazca View を呼び出して確認することで、シミュレーションが可能となり作業の軽減と検査が効率よく行えるようになりました。

当システムに求めることは、必要な情報が少ない操作でいかに得られるかであり、何でも見られるというのではなく、必要な情報とそうでないものの重み付けが大切だと思います。

STELLAR Order については、目的の患者を検索すると下部にサムネイル画像、横には読影レポートが表示され、さらにクリックすると NazcaView が立ち上がり、ドラッグアンドドロップで自由に画像の操作ができるので使用者の負担も少なく済んでいます。画像の表示スピードも速いので、高画質で CT などの枚数の多い画像の確認もストレスなくできる事から非常に重宝しています。

また、患者様の画像データが各モダリティごとに時系列で表示できるため、造影 CT、造影 MRI 等のオーダーが入った場合に、以前の撮影方法が簡単に確認できるため、プランが組みやすくなりました。

ビューアの画像処理機能も多く、便利で使い勝手が良いので特に MIP・MPR は簡易的にワークステーションとして使用しています。また、原画像を送信することでドクターサイドで任意の画像が作成できるので、患者様へ撮影画像・検査結果を見せながら結果説明が行えるようになり、診断の内容を迅速に分かりやすくお伝えする事ができ、患者様からも好評を得ています。

導入経緯

急性期病院として重要な医療の質や安全性、サービスの向上を図るためシステムを導入

地域の中核的医療機関として存続するため将来を見据えた医療体制の改革が必要であり、急性期病院として生き残るために必要な「DPC (診療報酬包括請求)」の円滑な実施のために医療情報の電子化が重要でありました。

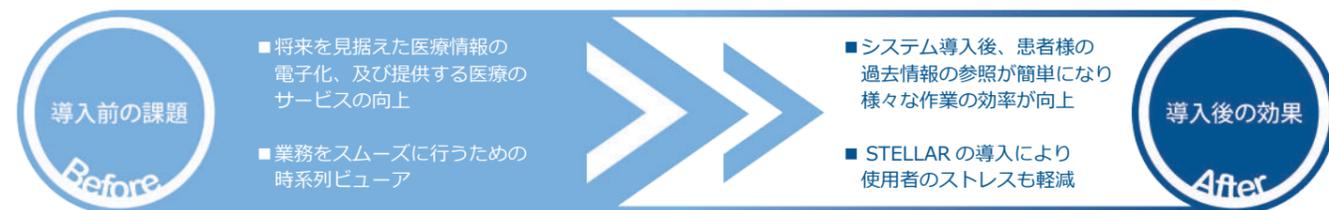
また、医療の質・安全性の向上や患者様へのサービスの向上のため、院内情報の流れを合理化・効率化し、患者情報の共有化を図る目的で診療情報電子化システム整備のための企画提案協議を行い、アストロステージ製品のシステム採用を決定し平成 23 年 5 月に導入しました。

時系列ビューアを求めた結果、STELLAR を選定

以前より「時系列で見ることが出来るビューアが欲しい」というシステムへの概念がありました。また、システム導入選定時に、他社の提案 (PACS を含む電カル) もありましたが、ここまで綺麗に見える (鮮明な見栄え) 時系列のシステムは他になく、アストロステージの時系列ビューア (STELLAR、NazcaView) の選定に至りました。



放射線科の皆さん



鹿児島県立北薩病院：システム導入時期 / Aug 2011



当院は県立の病院として、伊佐市を中心とする県内北部の地域医療の中核病院として重要な役割を果たしています。具体的には、「急性期医療」、「専門医療」、「地域の医療機関高齢者施設等の福祉機関の支援」としての役割を担うとともに、救急医療に関しても、「二次救急病院」としての支援や「輪番医制」の一員として、地域に貢献しています。また、管内の民間病院にはない「脳神経外科」や「神経内科」、「小児科」の診療科を開設しているほか、「呼吸器科」や「循環器科」、「外科」、「放射線科」などの専門医による専門医療や高度医療機器を用いた医療など、地域の中核的医療機関として地域の医療ニーズや民間病院の状況等に対応した高度・良質な医療サービスの提供に努めています。さらに、糖尿病外来や肝臓病外来、神経内科難病外来を開設するといった医療サービスの提供に努めています。

所在地：鹿児島県伊佐市大口宮人 502-4
 病床数：150 床
 診療科：内科・呼吸器科・循環器科・消化器科・外科・神経内科・脳神経外科
 小児科・放射線科

今後の方針

当院は、伊佐市、湧水町等の中核病院として紹介患者の的確で迅速な予約からデータの受け渡しまでのシステムの構築を行い地域に根ざした医療の提供ができたらと考えています。

また、現在撮影した画像は撮影者本人が責任をもって確認し、配信していますが、どうしても送信ミスなどのヒューマンエラーが発生してしまいます。そのための検像システム導入の必要性を強く感じております。

今後の期待・要望

心電図のパターンの自動認識、フュージョン、画像統合等、Viewer に本格的な画像処理 (ワークステーション) 機能を持たせることで一つのソフトに機能を集約させ、システム環境の複雑化を回避できます。また、各ドクターが必要な画像の作成が可能となり、さらに業務が効率的になります。

システム構成図

